

へーとこ へーとこ (京都市城陽市)

むかし、あるところに、男とおかみさんがいました。子どもがないので、一生懸命神さまにお願いしましたが、いっこうに授かりません。やっと生まれたかと思っても、すぐに死んでしまいます。

ある人が、

「名前が短いからじゃないか。長い長い名前をお付けなさい」と教えてくれました。そこで、男とおかみさんは、つぎに子どもが生まれたとき、長い名前を付けました。それは、こんな名前でした。

へーとこ へーとこ へーがーのーこ、かめー えんめー しきしきだいはんいや、かーみのちようのー、たーばーたーばー、いっちようぎりか ちようぎりか、いっちようちようぎり、もくろくさんぶの ちよつぼういん

その子は大きくなって、近所の子どもたちと遊ぶようになりました。

ある日のこと、外で遊んでいるとき、その子が、井戸に落ちてしまいました。近所の子どもが、

「おうい。へーとこ へーとこ へーがーのーこ、かめー えんめー しきしきだいはんいや、かーみのちようのー、たーばーたーばー、いっちようぎりか ちようぎりか、いっちようちようぎり、もくろくさんぶの ちよつぼういん」と呼んでいるうちに、あんまり名前が長かったので、その子はおぼれて死んでしまいましたとき。

おしまい

原話…『紀伊半島の昔話』京都女子大学説話文学研究会編／日本放送出版協会
再話…村上郁◎